

未消毒種子は種子消毒が必要です!

—種子更新で 良質米・安定生産に努めよう—

購入種子「種籾」には、種子消毒済（籾に青い色素が付着）のものと、未消毒種子の二種類があります。

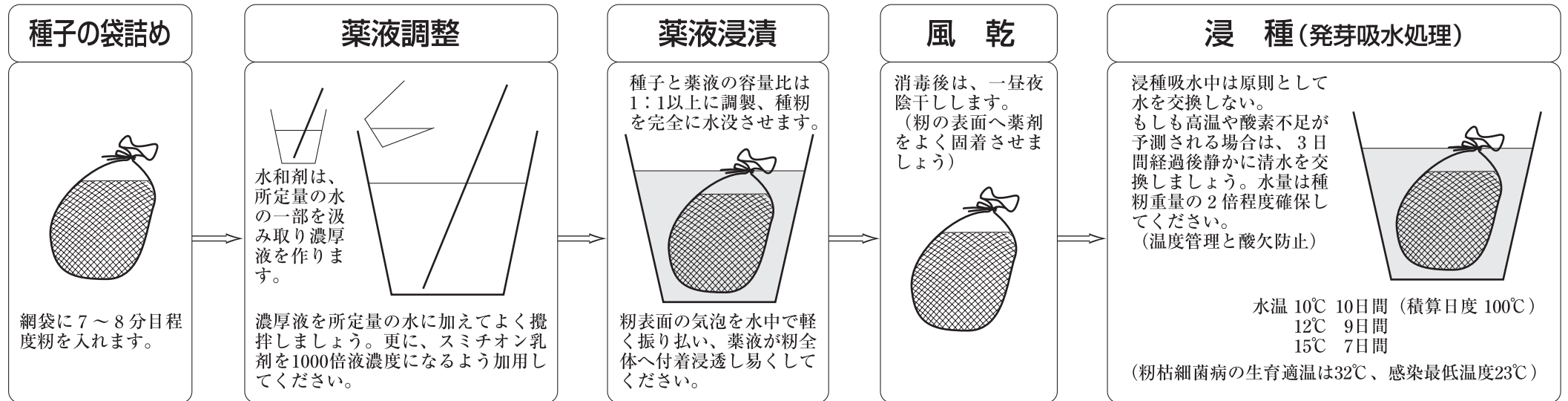
未消毒種子をお求めの方は、必ず育苗前に各自で種子消毒を励行してください。

購入種子は塩水選の必要はありません(比重選別機にて比重1.13で調製してありますが、保管条件によっては比重がやや軽くなる場合があります。)

未消毒種子の場合

種子消毒対象病害虫名：ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、イネシンガレセンチュウ

低濃度長時間浸漬法（24時間浸漬法）の例



※種子消毒用農薬は、いくつかの種類があります。各地域で入手可能な農薬は、最寄りのJAや農林事務所にお問い合わせください。

消毒済種子の場合

消毒済種子は、ばか苗病、いもち病、ごま葉枯病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、褐条病、イネシンガレセンチュウを対象に塗沫処理してあります。開封後直ちに網袋に入れて浸種吸水処理してください。浸種吸水後は、催芽⇒播種⇒出芽と順次進行してください。

作業上の注意

- ◆自家消毒をした種子と消毒済種子とは同時に浸種しない。
- ◆薬剤を吹付けた種子には直接手をふれない。
- ◆作業後は手・顔などをよく洗う。
- ◆消毒および浸種後の残液や容器の洗浄水は直接河川等に流さない。

消毒した種子が残ったら

- ◆残った種子は飯米や家畜の飼料には絶対に使用しない。
- ◆種子の空き袋は収穫期まで保管する。
- ◆残った種子は翌年に使用しない。

催芽

催芽器を用いる場合は、温度を最高30℃以上にしなない。

播種

はと胸程度のものを播種する。

出芽

出芽時の育苗箱内の温度を30℃以上にしなない。